

～ふくしまの今を知る、そして未来へつなぐ～  
**双葉町 見学会**

開催日: 2023.2/1 (水)  
 参加費: FIC会員 無料  
 FIC会員以外 1,000円  
(集合場所までの交通費・昼食代は各自に負担ください)



新たな年を迎え、さらなる“飛躍の卯年”となるよう活動していきます。  
 2023年 FICの活動は『双葉町 見学会』からスタートします。  
 2022年8月に帰還困難区域の一部解除となり、住民の帰還が実現した双葉町。  
 「なりわい暮らし」をキーコンセプトにした『えきにし住宅』が完成いたしました。  
 “町に集う人々が共に暮らしを育むことができる場所”として  
 誕生した住まいの場や公共施設を見学いたします。  
 ふくしまの今を知り、未来へつなぐ…双葉町 見学会へ参加しませんか。



2011年3月に発生した東日本大震災と  
 東京電力福島第一原子力発電所の事故の  
 記録や教訓、復興の歩みを伝え、防災・  
 減災の教訓として未来へつないでいく  
 『東日本大震災・原子力災害伝承館』  
 を見学いたします。

【お申込み先】  
 FAX : 024-952-2944 [申込締切] 1/23(月)まで  
 E-mail : kabutoboi9320301@nifty.com 株式会社 坪井道子宛

2023年2月1日(水) 双葉町見学会開催

見学場所

- ・道の駅なみえ
- ・双葉町 えきにし住宅
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館

今回はいわき支部の企画として見学会を開催。

震災から12年たとうとしている今、なかなか踏み入ることのできなかつたこの土地を訪問しました。

参加者は12名。車で相乗りしてそれぞれ道の駅なみえまで、郡山から高速を使い2時間ほどかかりました。

お天気に恵まれ、浜通りの気候は暖かく住みやすいところと感じました。当時のままらしい家もところどころに見られますが、えきにし住宅をはじめ、伝承館、双葉町産業交流館、建設中の道路もあり復興に向けて新しい町づくりを進めていました。



本館



なみえの技・なりわい館・ゆい

令和3年3月20日にオープンした「道の駅なみえ」は復興のシンボルです。「本館」と「なみえの技・なりわい館・ゆい」が入った2つの建物が隣接しています。外はとても広々としてラッキー君もおでむかえ。子供さんも楽しめます。本館にはお土産やレストラン、常磐物の海産物もたくさん売られていました。会議室や無印良品の店舗も入っていて暮らしに必要なものもそろいます。会議室をお借りして役員会そしてランチ。海鮮丼や浪江焼きそば、シラス丼。新鮮でおいしいランチをいただきました。さすが常磐物！

隣接する「Sakekura ゆい」でいただいた最中アイスが大きくて「わぁ嬉しい～」とFICの誰かが。お店の女性も笑顔で「私も嬉しい～」と。どんな様子になっているのかと複雑な気持ちで来た浪江でしたがこの一言ですうーっと明るくなった気がしました。

地酒もたくさんそろっていて、大堀相馬焼も展示販売しています。体験もできるようです。



### 見学者の感想

2023年 FICの活動は、【双葉町 見学会】からスタートいたしました。2022年8月に帰還困難区域の一部解除となり「なりわい暮らし」をコンセプトに完成した『えきにし住宅』を見学しました。“町に集う人々が共に暮らしを育むことが出来る場所、として広場の集会所にはキッチンもあり、川沿いには「川辺のテラス」もありタウンハウスと連続している為、気楽にコミュニケーションを育むことができます。世界が注目する双葉の未来創り、今後が楽しみです。入居募集中！

次に訪れたのは、【東日本大震災・原子力災害伝承館】の見学です。現地を訪れるまで正直忘れかけていた3.11のあの日、当時を思い出しました。震源地から近いということもあって現地で起こった生々しい記録や映像を目の当たりにし、まだまだ復興へり道のりは遠いのですが、記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでゆかなくてはと思いました。

佐藤悦子

[双葉町えきにし住宅 -双葉駅西側地区 再生賃貸住宅・公営住宅プロジェクト- \(restart-futaba.com\)](https://restart-futaba.com)

[東日本大震災・原子力災害伝承館 \(fipo.or.jp\)](https://fipo.or.jp)



放射線量は震災前に戻っています。家を取り壊されたせいか遮るものもなく、遠くの海まで見通せました。

伝承館では当時の映像や展示品に記憶がよみがえりましたが、原子力災害の大きさに対し、やや展示が単調に感じました。帰り際に外を見るとつぶれた消防車が目に入り、衝撃の大きさがわかりました。伝承館の近くにあった双葉町の屯所のもので、避難を呼びかけていた消防団員は幸い無事だったそうです。

コロナ禍ため実際に出かけることが少なくなっていました。私たちが見学したのはごく1部ですが、やはり百聞は一見に如かずで、自分の目で見て体で感じる事が大切と改めて思いました。原発事故で全町非難を強いられた双葉町。えきにし住宅では帰還する方だけではなく新たに移住してくる方も住むことができます。診療所も開設しました。常磐線も全面開通していますし、町では壁に描かれたアートもみることができます。まだまだ復興には時間がかかりますが、少し先には、えきにし住宅にすむ人々の新しいコミュニティが生まれ、おおきな軒下のパティオでバーベキューをしたり、おしゃべりしたり、穏やかに暮らす人々の様子が思い浮かびました。